

Read, Read, Read

–Enhance Your WPM & Comprehension–

英文速読と理解のための実践演習

Mitsuyasu Miyazaki

Miyagi Sadamitsu

 SEIBIDO

はじめに

「読んでいる」自分の姿を思い出してみてください。読むものは何でも構いません。ここではどんなことを行っていますか？ おそらくほとんどの人がこう答えることでしょう。目を動かして文字を読み、そこに書かれていることを理解して知っている、と。そこをもう少し詳しく見みると、理解しようとしているのは、自分から読もうとしたところだけです。言い換えれば、自分から読もうとしないところの情報は一切手に入らないことになります。つまり、「読む」というのはとても積極的な情報収集の手段であることがわかります。文字で書かれたことをただ受け取るだけだと考えていた人にとっては、ちょっと意外なことかもしれません。ですが、「読む」というのは自分から情報を得ようとする極めて積極的なコミュニケーションなのです。

わたしたちは、今、情報伝達の巨大な渦の中で生きています。身の回りにはありとあらゆる情報が溢れていて、ほとんど漂流していると言っていいほどです。その中から、自分に必要なものをどう選び、そしてどう処理するか（さらにはそれをどう伝えるか）は、大きな問題です。そのほとんどに「読む」ことが関わってきます。そう考えると、「読む」という手段はもはや抜き差しならないものであると気付かされます。とりわけ、現代は忙しくなりました。何につけ、時間が限られています。できるだけ短時間に情報を入手し、理解し、処理することが求められます。それは日本語ででもたいへんです。ましてやそれを外国語でとなると、段違いにたいへんなことになります。

本書では、そのためのトレーニングを行っていきましょうというのです。もう少し具体的に言うと、英文を「できるだけ速く読んで」、「できるだけ深く理解できる」ようになるための、実践的なトレーニングを行っていきます。単に、速読の方法を解説しておしまい、などということはありません。解説よりも何よりも中心的トレーニングは、実際に目を動かし、手を動かし、頭を働かせ、読んで、読んで、読んで、「読む力」を身に付けることに集中しています。正に、本書のタイトルの通りです。

トレーニングの進め方は、英文を「読む」いちばん最初のところから始めます。それは目をどのように動かすかということからです。いたって実践的です。そこから、「読む」ためのさまざまなスキルを段階的に身に付けていきます。途中でくじけることもありません。他人と比べる必要もありません。本書は自分のペースで学習を進めていくように作られています。トレーニングを重ねていくごとに、そのつど、持っている自分の力を確認し、それに自信を持って、そこからさらに着実に力を付けていけば良いのです。あせらず、あきらめず、あくまで読み進めていってください。

「読む」というのは、一見、静かで受動的な活動のように見えます。傍目にはその人の頭の中でどんなことが起きているか全く分からないからです。ですが、実際は違います。例えば、小説を読んでいるとしましょう。頭の中では壮大な物語が展開していきます。ページをめくるのがもどかしいほどです。時間を忘れて読み進み、とうとう終盤にさしかかると「まだ終わらないで！」と思わず心の中で叫んでいます。あるいは、留学の手続きをしたことがある人もいるでしょう。締め切りが迫っています。膨大な量の書類を次から次へと読んで対処していかなければなりません。瞬時に、大事なところか、急いで読み飛ばしてもよいところか、判断していきます。一語一語立ち止まっている暇はありません。と同時に、一言も逃すまいともしています。もはや、英語を読んでいるのか何語で考えているのか自覚がなくなってしまいます。と、こんな風に、見た目とは裏腹に頭の中はフル回転しています。「読む」行為は極めて活発なコミュニケーション活動なのです。大げさなようですが、その力を身に付けるということは、一生、発揮できる力を持っていることなのです。情報ネットワークの荒波の中を漕ぎ出していくには、必要不可欠と言えます。せっかくの機会です。コミュニケーション・ストラテジーのひとつとして、しっかりとした「読む力」を自分のものにして行きましょう。

最後になりましたが、本書ができ上がるまでに、たいへん多くの方々にご尽力いただきました。まず、成美堂社長の佐野英一郎氏には、本書のようなこれまでにない教科書の出版を、格別のご理解によって最終的にご決断いただきました。そして宍戸貢氏には、企画段階から議論に参加していただき、編集もずっと手がけてくださいました。その間、幾度も打ち合わせを重ねました。それなくしては、この教科書は完成しえなかったと断言できます。編集者の域をとうに超え、もはやもう一人の著者であると言っても過言ではありません。ここに記して感謝の意を表します。その他、お世話になった方々を挙げていけばきりがありません。ご無礼はどうかお許しいただきたく、皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

2014年12月 宮崎 充保・貞光 宮城

本書の使い方

本書での学習をスタートする前に、本書が何を目的としていて、どんな作りになっているかなど、まずは本書の学習の全体像をつかんでおきましょう。

本書の目的：

本書は、読む速度（WPM）を上げると同時に読解力（Comprehension）を向上させるためのトレーニングを実践する教科書です。それによって、読むコミュニケーションの力をつけていきます。身の回りで起こっていることや話題になっていることなど、身近な諸側面を扱った英文を用いて学習していきます。

本書の各Unitの学習を通して：

◇ **英文読解に必要なさまざまなリーディング・スキルを段階的に身につけることができます。**

まず、英文を読むとき実際どのように目を動かすかを練習します（Part 1）。次に、これまで学習してきた文法や語彙の知識を英文速読にどのように活かして読むかを学びます（Part 2）。さらに、ある程度のまとまりを持った英文の構成を知り、それを速読に活かすことを学習します（Part 3）。こうして段階的に英文速読の力を身につけていきます。

◇ **英文を読むというコミュニケーションの力を強化することができます。**

読むことはコミュニケーション活動をすることです。書かれた文字から、持っている知識や経験などを総動員して、全力でその情報を得ようとする（通じる－わかる）活動だからです。本書で学習したリーディング・スキルを、日常生活の中で出会う英文での情報のやり取りに活用していきます。海外のWebページを読んだり、英文メールを読んだり、文献を調べたりなど、あらゆるものがその対象となります。速読の力をつけることから、読むコミュニケーションの力をつけていきます。。

◇ **自分で学習する姿勢を身につけることができます。**

自分の英文読解力を知るところからスタートし、各Unitで読むさまざまな活動を通して、それを伸ばしていく方法を、自分で考えながら体得していきます。本書ではまず【練習】が来ます。解説はその後に続きます。そうすることで、学習のポイントを自分で発見しながら身に付けていきます。

本書の特色：

◇ **本書の英文は身近な話題を扱っています。**

各Unitにあるpassageの英文は、いろいろな分野から選ばれています。時事英語やエッセイ、小説、自伝など、様々です。その内容の多くが、身の回りのことを扱っていて、おそらく関心を持ってもらえるものだったり、ぜひ読んでみてもらいたい英文だったり、英語での日常生活でごく当たり前に使われているものだったり、いつでも目にする可能性が高いものや、読む必要が出てくるだろうと思われるものです。一見、むずかしそうに思われる英文にも出くわすかもしれません。しかし実は、どれも自分に関わりがある英文ばかりで、むずかしさも乗り切って行くものばかりです。そうすることで、英語を使ったコミュニケーションを現実のものとして学習できます。

◇ **本書は、自ら学習を進めていくことを意図して作られています。**

本書は基本的には学校の授業で使う教科書です。しかし授業で学習は終わりではありません。授業がトレーニングのスタートです。この授業には予習は不要です。まず授業で読み方のトレーニングを行い、そこで学んだスキルを自分でじっくり復習してください。各Unitの復習のために、Webサイトでの練習が用意されています。各Unitで学んだリーディング・スキルを着実に身に付けていってください。そしてさらに、教科書を離れ、自分から読書をどんどん進めていってもらえることを願っています。

◇ **今、何をトレーニングしているのかを自分自身で考えてもらい、それを体得していってもらえるように作られています。**

「読む」という活動は、自分から行わなければ、進むこともできないし、内容を理解することもできません。読む力をトレーニングするには、自分自身が自主的に進め、考え、身に付けていく姿勢—活動への動機付け—が絶対に欠かせません。本書は、自ら学習を進めていくために、各段階での学習内容（今、何を学習しているか、あるいは何を学習したかなど）を自分自身で自覚できるようにしています。それが自分で確認できるよう解説を詳しくしています。またUnitの最後には学習内容の「まとめ」が用意されています。本書を使って自分から学習を進めていけるように構成してあります。

◇ **英文を読む速度と読解力を数値化し、その都度、自分の力量が計れるように作られています。**

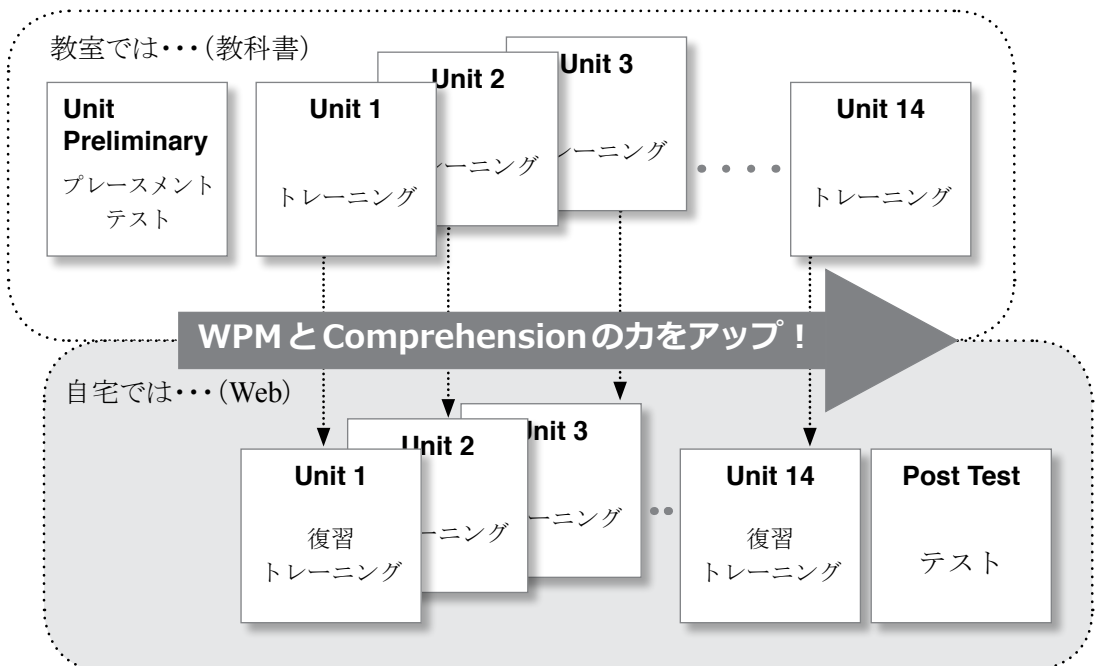
測定する値は、1分間に英文を読める語数（WPM）と、その内容をどれだけ理解できたか（Comprehension）の割合です。

| | |
|---------------|--|
| WPM | words per minute。1分間に読める英単語数を計る。これにより、読む速さを数値化する。 |
| Comprehension | 読んだ英文がどれくらい理解できるかを、読後の設問に対する正答率から計る。これにより、内容理解の程度を数値化する。 |

この2つの数値に基づいて、あなたの学習状況が「見える」ように作られています。そのため、本書は、評価表 (p.10) を用意しています。この表を使って、自分の学習状況を初めから終わりまで毎回記入していき、自分の力が伸びていくのを確認しながら学習を進めることができます。最初のうちは、WPMとComprehensionもどちらもすぐには向上してくれないかも知れませんが、WPMとComprehensionが手をつないで向上するには少し時間がかかるでしょう。しかし、トレーニングを続けていけば、きっとこの両者が手を結ぶ瞬間が訪れるでしょう。

本書の構成：

全体は、教科書（本書）とWeb教材の二部構成になっています。学習の流れは、まず、Unit Preliminaryで自分の読みの実力を測ります。そして、実際のトレーニングをUnit 1からUnit 14で行います。各Unitの学習手順は、まず、予習なしで授業に出席します。教室で初めて教科書を学習することになります。その代わり、復習を徹底して行います。各Unitで学んだリーディング・スキルをしっかりと身に付けるために、Web教材を用います。これは自宅などの授業外の自己学習として行います。本書の最後にPost Testが用意されています。この結果を、本書で学習をスタートしたときと比較し、学習の成果を自



分自身で確認することができます。

各Unitの取り組み方：

● Unit Preliminary

まずは、プレースメントテストに挑戦です。自分の英文を読む力を計ります。これがスタート地点となりますから、あまりわかったふりをして解答せず、あくまでも正直に取り組んでください。

| | |
|----------------|---|
| Placement Test | 3種類のリーディング問題があります。それぞれ時間を測りながら、一気にチャレンジしてください。終わったら、3種類の英文での平均の読みの速さ(WPM)と、読解問題(計30問 Comprehension Test)の正解した合計数、そして、その合計数を30で割った正解率を計算して、10頁の評価表で自分の位置を確認します。スタート地点はどこでも構いません。自分がどこにいるかがわかればいいのです。 |
|----------------|---|

● Unit 1 ~ Unit 14

Unit PreliminaryでWPMとComprehensionの値によって自分のスタート地点を確認したら、Unit 1から実際のトレーニングに入っていきます。

各Unitの構成は以下の通りです。

| | |
|----------------------|--|
| Warm Up | まずはウォーミングアップです。原書から英文をほんの一部だけ掲載します。それを読んでその文章は「何が言いたいのか」を選択問題で考えてください。その原書を読んでみたいと思えるようになればしめたものです。 |
| 前回の復習 | 前回のUnitで学習したことを復習します。より速く読み、そしてより深く読めるようになるには、さまざまなリーディング・スキルを総合的に活用していく必要があります。前回学んだことが身に付いているか、確認してください。 |
| WPMとComprehensionの計測 | Today's Passageを読んで、その日の読みの速さ(WPM)と理解度(Comprehension)をチェックします。評価表で毎回自分の位置を計測しながら学習を進めていってください。 |
| スキルの学習 | Today's Passageの本文を使って、その日のスキルをトレーニングします。Today's Passageは何度もくり返しトレーニングの中で教材(【練習】)として登場し、何度も目を通すこととなります。そうすることで、一文ごとに和訳などしなくても内容が次第に分かってくるはずです。 |
| Unitのまとめ | その日に学習したポイントを確認します。その日の活動を通して、身に付けていったスキルや読み進む上で留意すべき点を整理してください。 |

| | |
|------|---|
| 単語学習 | 本文で登場した単語を復習します。そのときの文脈や印象、そして使われた環境などといっしょに、できるだけ記憶に残していきます。また、毎回、Today's Idiomとして何かの折りに役に立つ表現を載せています。ここでは語彙の幅を広げることに専念してください。 |
|------|---|

● Web学習

授業中に読んだだけでは到底速読の域までは達することなどできません。教科書で学習したことをしっかりと身に付けてもらうために、Webサイト上で教科書とは別の教材で復習します。そこで各Unitで学習したことを授業以外の時間に自分でトレーニングし、さらに読書の幅を広げてもらいます。学習手順は以下の通りです。

| | |
|---------|---|
| ログイン | 所定のポータルサイトからログインして学習を開始します。授業で学習したことを、次のUnitの学習を始めるまでに、必ず復習してください。 |
| 学習項目の選択 | 教材は難易度に応じて3種類 (Packages 1-3, p.10の表を見よ) あります。教科書の評価表での自分の位置を確認して、3種類ある教材への入り口を選択してください。教材の選択に関しては、自己申告あるいは先生の指示に従ってください。 |
| スキルの学習 | 各Unitで学習したリーディング・スキルを、さらにしっかりと身に付けるための練習がWeb上にも用意されています。教室では先生の指示のもとにトレーニングしましたが、Webでは自分一人で練習を進めます。もちろん、教科書の解説を読み直しても構いません。 |
| 自己評価 | 練習が終了したら、自己評価をします。WPMとComprehensionの数値などの学習記録をつけていくことで、評価表での自分の位置と照らし合わせ、自分自身の学習成果を確認しながらトレーニングを進めていきます。自由記載欄もぜひ利用してください。こうした学習記録を元に、授業内だけでなく授業外でも先生とコミュニケーションを取り、学習上のアドバイスを受けることができます。 |

● Post-Test

本書の締めくくりとして、Web上でPost-Testを行います。

| | |
|-----------|--|
| Post-Test | 本書での学習をスタートした時から、どのくらい力がついたか、その伸びを評価することができます。 |
|-----------|--|

では、本書の使い方がわかったところで、早速、トレーニングの開始です。